

# 令和7年度 数理・データサイエンス・AI教育プログラム 自己点検・評価

令和8年6月2日  
大学分科会教務部会資料

評価日時：令和8年6月2日

会議名称：玉川学園教育活動等点検調査委員会大学分科会教務部会

目的：令和7年度の数理・データサイエンス・AI教育プログラムの自己点検・評価

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の審査項目の観点による評価

自己点検・評価の観点	評価・意見	資料等
学内からの観点		
〔観点1〕プログラムの履修・修得状況	<p>令和7年度の履修者数は1,368名（履修率20.1%）であり、令和7年度の目標の1,650名（履修率25%）を下回る結果となった。令和6年度からは123名増加した。修得者数は1,004名で令和6年度からは106名増加した。学内広報活動による認知度の高まりやプログラム対象科目の開講数の増加が要因として考えられる。また、昨年度に続いて農学部と工学部は他学部と比較すると履修者が多数であったが、経営学部・リベラルアーツ学部の履修者も増加傾向にある。学部による履修者数の増減は、入学者数の増減にも影響していることが要因の一つとしてあると考える。前年度に引き続き、全体的には文理を問わず、多くの専門分野の学生が履修していることが確認できた。令和6年度から開始した通信教育課程では令和6年度9名履修・修得に対し、令和7年度は44名履修し、39名が修得した。</p> <p>さらに、科目「数理・データサイエンス・AIリテラシー」の履修理由を調べた結果、「AIに興味があるから」57.8%、「データサイエンスに興味があるから」37.8%が多く、AI・データサイエンスへの関心が主な履修動機であることが確認された。一方で、プログラミング経験が全くない学生は52.4%であり、初学者に配慮した段階的な授業設計の必要性が示された。なお、大学での学びに役立つとの肯定的回答は96.6%、就職活動に役立つとの肯定的回答は92.1%であり、学生の期待は高いと評価できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>履修者数・修得者数の実績と履修者数の目標</li> <li>〔観点1〕プログラム履修・修得状況 科目「数理・データサイエンス・AIリテラシー」について</li> </ul>
〔観点2〕学修成果	<p>本学の成績評価は「知識・理解」だけでなく、「汎用的技能」、「態度・志向性」の達成度評価も含めた評価となっている。このことから、各科目の成績評価が各修得者の学修成果とみることができる。プログラム修得者のプログラム科目のみGPAと全US科目GPAの比較を学部別でしたところ、8学部中6学部がプログラム科目の方がGPAが高いという結果であった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プログラム修得者のプログラム科目のみGPAと全学US科目GPAの比較</li> </ul>

## 令和7年度 数理・データサイエンス・AI教育プログラム 自己点検・評価

令和8年6月2日  
大学分科会教務部会資料

自己点検・評価の観点	評価・意見	資料等
<p>〔観点3〕 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度</p>	<p>オープンバッジ申請時に学生に本プログラムについてのアンケートを実施した。学生の内容の理解度については、「理解できた」が71%、「やや理解できた」が29%で合わせて100%となり、昨年度以上に、学生が理解できたと感じていることが確認できた。</p> <p>「一年次セミナー101/102」では、本プログラムに関する解説動画をリニューアルし、視聴後に実施した確認テスト（春1回、秋2回、計3回）において、受験者のうち、春は97.3%、秋は88.3%が合格点（60点以上）を取得した。この結果から、受講者の大半が概ね目標とする理解度に到達していると判断できる。</p> <p>科目「数理・データサイエンス・AIリテラシー」において、授業の理解度については、「授業内容は理解できた」と回答した学生が96.3%であった。また、「授業内容はわかりやすかった」と回答した学生は488名、96.1%であり、授業内容の理解しやすさについても高い評価を得た。課題提出状況については、すべての課題を提出した学生が71.5%、未提出が2回以内の学生を含めると91.9%であり、継続的な課題提出を通じて学修内容の確認が行われていた。さらに、自由記述の結果を通じて、学生の理解度に問題がないことを確認した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する学生アンケート①</li> <li>・〔観点3〕 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度 科目「数理・データサイエンス・AIリテラシー」について</li> </ul>

## 令和7年度 数理・データサイエンス・AI教育プログラム 自己点検・評価

令和8年6月2日  
大学分科会教務部会資料

自己点検・評価の観点	評価・意見	資料等
〔観点4〕 学生アンケート等を通じた後輩他の学生への推奨度	<p>オープンバッジ申請時に学生に本プログラムについてのアンケートを実施した。後輩他の学生への推奨度については、「推奨したい」が74%、「やや推奨したい」が26%であり、昨年度同様、アンケートに回答した全学生が肯定回答であったことが確認できた。</p> <p>また、「数理・データサイエンス・AIリテラシー」の事後アンケートにおいて、本科目で修得した知識・技能が今後の大学生活や就職活動・就職後に役立つと思うか、また未受講の学生が是非聞いた方が良い内容について調査した。その結果、修得した知識・技能が今後の大学生活に役立つとの肯定的回答は92.5%であり、就職活動や就職後に役立つとの肯定的回答は有効回答ベースで90.4%であった。また、未受講の学生が是非聞いた方が良い内容については507名から自由記述が得られ、AI・生成AIの仕組みや活用・注意点、Python・プログラミング、データ分析・可視化、社会・倫理・情報リテラシーに関する内容が多く挙げられた。これらの結果から、学生は本科目の内容を自身の大学生活や将来に役立つものとして捉えており、他の学生にも学ぶ意義のある内容として評価していると考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する学生アンケート②</li> <li>・〔観点4〕 学生アンケート等を通じた後輩他の学生への推奨度 科目「数理・データサイエンス・AIリテラシー」について</li> </ul>
〔観点5〕 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>全学部必修科目「一年次セミナー101,102」での本プログラムの周知、広報を行い、8学部中6学部で履修者が増加した。「数理・データサイエンス・AIリテラシー」を学部で開講することにより履修者の増加に繋がるため、今後も学部による同科目の開講を推奨する。</p> <p>さらに、今後、下記の取り組みを講じ、引き続き、各年度の目標とする履修者数確保に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新入生ガイダンス等での本プログラム周知</li> <li>・ オープンキャンパス等での本プログラム周知</li> <li>・ 専任教員のオフィスアワーの実施</li> <li>・ 授業外学修支援（ラーニング・コモンズにおける学修支援を含む）</li> <li>・ LMSによる24時間の学びの確保</li> <li>・ 本プログラム専用WEBサイト等による学内外周知・情報提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プログラム専用WEBサイト (<a href="https://www.tamagawa.ac.jp/tuaa/ai/ai-literacy/">https://www.tamagawa.ac.jp/tuaa/ai/ai-literacy/</a>)</li> </ul>

# 令和7年度 数理・データサイエンス・AI教育プログラム 自己点検・評価

令和8年6月2日  
大学分科会教務部会資料

自己点検・評価の観点	評価・意見	資料等
学外からの観点		
〔観点6〕 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	令和7年度の本プログラム修了者のうち、卒業生は148名であった。そのうち、卒業後の進路（職種）を調査した結果、営業職48名、情報処理技術者18名、その他専門的・技術的職業従事者10名、小学校教員10名が特に多い職種であった。昨年度同様、文理を問わない職種が多いことが確認できた。修了者の活躍状況、企業等の評価については、実施するまでには至らなかった。修了者の活躍状況や評価を確認する方法を引き続き検討していく。	・令和7年度 数理・データサイエンス・AI教育プログラム修了者 進路（職種）
〔観点7〕 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	産業界からの視点を含めた教育プログラムの内容・手法等への意見を得るために、本年度は、複数の企業との連携を強め、積極的な意見交換を行うことができた。具体的には、本学キャリアセンターを通じて企業を対象にアンケートを実施し、その結果に基づき、授業内容の改善や産学連携の可能性について検討した。また、産業界を含む数理・データサイエンス・AI教育推進のための交流会への出席や、研究会・シンポジウム等での講演を通じて、意見交換を行った。	・本プログラムに関するアンケート（企業用） ・武藤ゆみ子,佐々木寛,伊従記章,玉川大学「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」,数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム“関東ブロック 産学連携交流会”,2025年9月4日/2025年10月27日
〔観点8〕 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	オープンバッジ申請時に学生に本プログラムについてのアンケートを実施した。学生の本プログラムを通じてデータサイエンスや人工知能を学ぶことの意義については、「理解できた」が74%、「やや理解できた」が26%となり、昨年度同様、アンケートに回答した全学生が肯定回答であったことが確認できた。 「数理・データサイエンス・AIリテラシー」の事後アンケートにおいて、「数理・データサイエンス・AI」の修得が学生にとってどのような点が必要であるかについて自由記述で調査した。その結果、AI・生成AI時代の基礎教養として必要であるという記述、データを読み取り判断する力が必要であるという記述、社会や就職において必要であるという記述、安全・倫理・リスクを理解する必要があるという記述が見られた。具体的には、AI・生成AI時代の基礎教養に関する記述が154件、データを読み取り判断する力に関する記述が90件、社会・将来・就職での必要性に関する記述が81件であった。これらの結果から、学生は本科目を単なる知識習得の授業としてではなく、大学での学び、社会生活、就職活動および職業生活に必要な基礎的教養を身につける授業として理解していると考えられる。	・数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する学生アンケート③ ・〔観点8〕 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること 科目「数理・データサイエンス・AIリテラシー」について

## 令和7年度 数理・データサイエンス・AI教育プログラム 自己点検・評価

令和8年6月2日  
大学分科会教務部会資料

自己点検・評価の観点	評価・意見	資料等
〔観点9〕 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	<p>オープンバッジ申請時に学生に本プログラムについてのアンケートを実施した。講義内容のわかりやすさについては、「わかりやすかった」が62%、「ややわかりやすかった」が32%で合わせて94%となり、昨年度同様、高い割合の学生がわかりやすいと感じていることが確認できた。</p> <p>また、動画コンテンツの作成を行い、授業をさらに分かりやすくするための工夫を行った。「数理・データサイエンス・AIリテラシー」の学生アンケートの結果から、「授業内容は理解できた」と回答した学生が96.3%、「授業内容はわかりやすかった」と回答した学生が96.1%であった。これらの結果から、本科目は内容・水準を維持しつつ、学生にとって理解しやすい授業として実施できていると考えられる。</p> <p>今後は、内容・水準の維持向上のために、本プログラムの理解促進を目指し、科目担当者に向けた説明会の実施や説明資料の配付を検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数理・データサイエンス・AI教育プログラムに関する学生アンケート①</li> <li>・〔観点9〕 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること 科目「数理・データサイエンス・AIリテラシー」について</li> </ul>